



家族葬。いつの間にか定着してしまったこの葬儀のあり方に馴染めない人も多いようだ。生前ごく親しかった人も「あの人が亡くなったの？全然知らなかったわ～。えっつ、そうなの、え～～～」と驚きの声を聞くことも多い。岐阜市内にお住いのご門徒さんも深刻な面持ちでお話くださった。最近では何故か近所にも知らせない葬儀が多くなったとのこと。一戸、二戸と近所に家族葬が増える度に、我が家の葬儀のあり方も、近所の皆さんに合わせなければならないのかと、大変に憂慮されていた。(家族葬定義？・家族だけで執り行う葬儀？それとも家族だけが出席する葬儀？親族葬？近親者葬？)

「簡単で便利、さらに費用が安く、煩わしさもない」という、生きている者に好都合の波は、ついここまで押し寄せてきてしまっているのだろうか。その背景には様々な理由(わけ)もあるのだろうが、最後のご縁となる葬儀の場に臨めないやるせなさや、今までにいっぱいのご縁をいただいて共に生きてこられた多くの方には残るのではないだろうか。葬儀のあり方も時代とともに変容するものだろうけれども、「絆」「きずな」とその大切さが叫ばれる昨今である以上、人間の最期にこそ、その証明がなされなければ葬儀そのものの形骸化も止まることはないであろう。葬儀は**亡くなられた方からの無言のメッセージを受け止める、最後の大切なご縁の場**であると受け止めている。

守られ生かされる思い

MM

私は夜床に就くと、じぼろろの間自分の脈拍を聞くようにしています。そうしますと今日も一秒の休みもなく心臓は働き続けて下さったことが思われ、自然にありがたうじぼろろと感謝の念がわいてきます。平素は体の働きなど無頓着で過しがちですが、時折注意を向けると絶えず守られ生かされていく身であることに実感します。

「じぼろろ」といふ言葉がありますが、体の働きには「じぼろろ」の働きが多くあります。夜寝付く「じぼろろ」も、目覚める「じぼろろ」も、トイレへ行きたくなる「じぼろろ」も、空腹を感じる「じぼろろ」も、みな「じぼろろ」の働きになります。つまり内臓を含めて命にかかわる「じぼろろ」は、みな「じぼろろ」の働きとして、仏様が「コントロール」していただるようになります。

平成二十八年二月に八一歳を迎えましたが、昭和十年に誕生以来、心臓はどれだけ拍動を繰り返したことになるのか確かめてみたいと思いついて計算したことがあります。個人差はありますが、一日十萬回として計算しますと、八十一年間で実に二十九億五千六百五十萬回になりました。

ひとつの臓器が、八十一年間休みなく働き続けることは、脅威というほかありません。まさに守られ生かされる身であることを思い知らされます。

これは人間だけに起こるものでなく、生きとし生けるものすべてに及ぶ阿彌陀仏の広大な慈悲の働きであり、信心の目覚めにつながるものではないでしょうか。

蜂の色

谷の響きも みなながら

わが釈迦牟尼仏の声に姿を



真宗教化センターウェブサイト「真宗ドットインフォ」に掲載されます。

URL <http://jodo-shinsyu.info/>

光受寺の活動内容が、「親鸞交流センター」からの教化に関する情報として発信されます。機会がありましたら、ぜひご覧ください。

上記 URL でもよろしいのですが、下記の方法が入力間違いは少ないかと思えます。

「東本願寺」→「浄土真宗ドットインフォ」→「がんばる寺」でご覧ください。

6月15日の時点ではまだ掲載はされておりませんが、間もなく掲載されると思えます。

光受寺のホームページもリンクされるとか、そうお聞きいたしております。

みなさんのご理解と、ご協力があつて様々な教化への取り組みができております。今後ともより一層のご支援、ご協力をお願いいたします。

紫陽花がきれいでした。

今年も紫陽花がきれいに咲いてくれました。坊守の紫陽花への思いが、通じたかのようにでした。

原種に近い山紫陽花は5月下旬には小さな花をいっぱい咲かせ初夏の風情を楽しませてくれました。

その後も約三十種類以上の紫陽花が境内を彩ってくれました。

時々訪れてくださる参詣者の方も楽しんでくださっていたようでした。



今年の色合いが特別きれいでした。住職が好きな色。



山紫陽花小さくて、可憐な花。

上 (剣の舞)。



毎月二十日は岐阜別院において仏教公開講座が開かれています。午後六時三十分～八時三十分

一年間の予定をお知らせいたします。

七月水 池田勇諦氏 同朋大学名誉教授

八月土 田口 弘氏 真宗大谷派僧侶

九月水 戸次公正氏 大阪教区南溟寺住職

十月木 平川宗信氏 名古屋大学名誉教授

十一月日 森 達也氏 映像作家

十二月水 古田和弘氏 九州大谷短大名誉学長

一月金 海 法龍氏 真宗大谷派首都圏教化推進本部員

二月月 真城義麿氏 四国教区善照寺住職

三月祝 沙加戸弘氏 大谷大学名誉教授

四月木 龍 茂樹氏 大垣教区善念寺住職

五月土 小川一乘氏 大谷大学名誉教授

六月水 一楽 真氏 大谷大学教授

聴講ご希望の方は年間券5千円、当日券5百円です。

年間券は住職まで、当日券は当日受付でご購入

ください。

八月の学習会はお休みです。

九月は第二土曜日午後七時より八時半まで

新聞原稿募集しています。

日ごろの思い、旅行記、趣味、俳句、短歌、写真何でも可。よろしく協力ください。

新聞原稿募集しています。